

でんとするは、儉約にしくはなし、能く此事心得べしと也。

〔落穂集追加〕四土井大炊頭殿利と伊丹順齋出合の事

一問曰、權現様の御事は、少は御吝嗇なる御方被成御座たる共申、又左様には無御座共申ふる、をば、如何承り候や、答曰、權現様杯の御噂を、拙者如き者の口より申上奉るは、恐れ入たる御事にはあれども、人々の惑ひを散じ候爲と存るを以て、愚意の趣を申上候、世界國土の重寶と申ては、金銀米錢の四つに留りし也、但是を用ゆるに、善惡の二段の差別有之にて候、一には金銀米錢の重寶たる事を能く勤辨致し、少きなりとも無用無益の事曰、口捨て、事をはからいて、常に是をたくわへ、爰は財寶を用ひず候ては、不相叶とある如くなる時節にのぞみては、毛頭ほどもおしむ心無是を取り出して、其用事をつかへ無之如く致す有るは、高きもひき、も是を儉約と申譽たる事に仕る事なり、二つには金銀米錢重寶と有る事を、あまりに知りすぎしいやがうへにも多く貯へて集め、是を握りづめにいたし、手ばなす事をきらひ、爰は財寶を不用しては、不叶にのぞみ、是も是を取り出し、其用事を調る事の不能成如くなる心あいをさして、文字にもをしみをしむと云、吝嗇と申て人間上下貴賤をかぎらず、よろしからぬ事に仕るなり、三つには金銀米錢を遣ひ散ずる事をば、湯水を遣うも同じ事の様に心得、無益の義にもをしみ無く入果すを、扱もきやう人の物ぎらしかななど、申て、うつ氣者のほめそやしけるを、能き事と心得、有れば有次第に、勤辨もなく取出して、まぎちらす如く有之を、やくたいなし共、十方無しとも名付、吝嗇人にはをとりたる方共可申也、子細を申に、吝嗇と申もよろしからぬ事とは申ながら、我手前に物を持ちたくわへ居申義なれば、物入りの時節にのぞみ、了簡をさへよく致し申さば、取出して用たく申儀のなるまじき物にては、有りたけの物を残りなく取り出して、外へまき失とたくわへなしの勝手向となり、果ては先へも跡へも参りがね、埒の明ぬ義にて、貴賤上下の武士勤辨尤の所也、